

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2006年8月)

発表日2006年10月12日(木)

～経常黒字額は2ヵ月連続で前年を上回る～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭
TEL : 03-5221-4525

		原数値 経常収支				季調値 経常収支			
		貿易・サービス収支		所得収支		貿易・サービス収支		所得収支	
		前年比	前年比	前年比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比
05	1-3月期	▲ 8.1	▲ 23.0	▲ 21.4	14.5	0.0	4.9	2.8	▲ 1.6
	4-6月期	▲ 9.8	▲ 30.4	▲ 29.7	18.4	▲ 5.4	▲ 30.3	▲ 24.7	14.3
	7-9月期	▲ 1.5	▲ 35.2	▲ 31.7	28.5	4.4	▲ 2.8	▲ 6.1	4.9
	10-12月期	13.6	▲ 8.2	▲ 18.6	30.1	20.8	30.7	10.0	12.7
06	1-3月期	18.5	▲ 13.5	▲ 28.2	42.0	▲ 4.1	▲ 9.4	▲ 6.1	7.2
	4-6月期	▲ 3.0	▲ 24.5	▲ 17.4	15.8	▲ 15.3	▲ 28.1	▲ 11.7	▲ 7.7
05	8月	▲ 16.1	▲ 93.3	▲ 69.4	28.1	4.5	11.1	3.4	1.4
	9月	6.1	▲ 19.3	▲ 20.8	33.7	5.1	▲ 4.5	▲ 0.5	7.1
	10月	7.3	▲ 20.8	▲ 29.7	45.7	12.8	33.5	1.0	5.9
	11月	17.3	16.7	▲ 0.8	11.4	▲ 9.2	▲ 10.9	11.0	▲ 11.1
	12月	16.1	▲ 9.9	▲ 16.8	39.6	27.6	16.4	2.1	29.1
06	1月	2.5	赤字	赤字	33.7	▲ 18.5	▲ 13.9	▲ 20.8	▲ 10.6
	2月	10.8	▲ 7.0	▲ 11.8	32.9	6.6	8.3	28.8	3.6
	3月	34.3	6.7	▲ 6.8	58.0	▲ 1.7	▲ 18.0	▲ 14.3	9.6
	4月	▲ 17.7	▲ 59.4	▲ 32.8	12.7	▲ 30.5	▲ 64.2	▲ 36.0	▲ 15.6
	5月	16.8	29.5	11.1	15.8	32.7	259.5	86.7	▲ 10.5
	6月	▲ 6.4	▲ 13.3	▲ 12.2	23.7	▲ 2.4	▲ 40.8	▲ 26.4	29.5
	7月	7.1	▲ 8.4	▲ 8.5	23.5	10.7	54.6	25.6	▲ 8.7
	8月	22.2	396.9	36.0	11.1	▲ 6.3	▲ 4.2	▲ 3.8	▲ 7.7

(出所)財務省「国際収支状況」

○ 8月の経常黒字額は前年比+22.2%と増加

8月の経常黒字額は前年比+22.2%の14,769億円(原数値)と2ヵ月連続で前年を上回り、ほぼ事前の市場コンセンサス(14,326億円、レンジ10,620~19,500億円)通りの結果となった。内訳をみると、貿易黒字額が前年比+36.0%と黒字幅が拡大した他、サービス収支の赤字幅が縮小し、所得収支も同+11.1%と黒字幅が拡大したため、全体として黒字額は増加した。

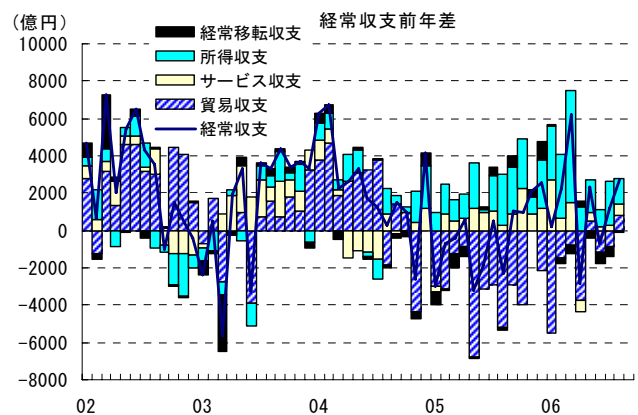
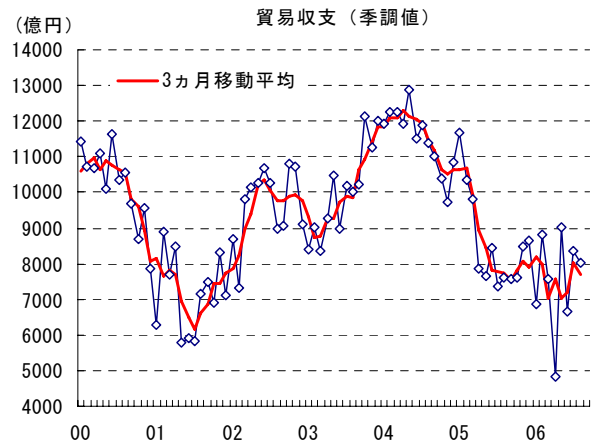
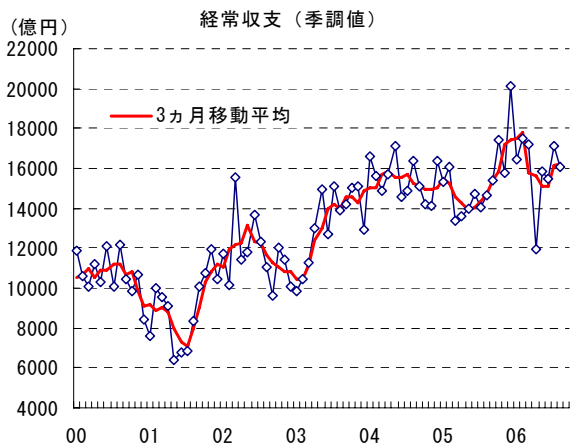
○ 貿易および所得黒字額が拡大し、サービス収支の赤字幅も縮小

原油価格の高騰によって輸入金額は前年比+16.4%(前月同+19.0%)と引き続き大幅増となっているものの伸びは小幅鈍化したこと、輸出金額が前年比+17.3%(前月同+13.6%)と伸びが拡大したことから貿易黒字額は前年を上回った。主力の自動車輸出が好調だったことや、鉄鋼や非鉄金属等の素材関連輸出も高い伸びとなったことが貿易黒字額を押し上げた。

サービス収支については、原油価格の上昇による運賃値上げ等の影響から輸送収支の赤字幅は拡大したが、外国人旅行者の訪日を推進していることもあって旅行収支の赤字幅が縮小に寄与した。

所得収支は、①証券投資収益が対外資産の累増を背景とした外国債券の受取利子の増大などによって増加基調を辿っていることに加え、②直接投資収益についても海外子会社の業績が好調であることを反映して堅

調に推移しているため拡大傾向が続いている。伸びは先月からやや鈍化したが、所得収支は増加基調で推移している。



○先行きも経常収支は高水準での推移が続く

対外資産の増加などから所得収支の黒字額の拡大が続く可能性が高いこと、サービス収支も赤字額の縮小傾向が続くとみられる下、経常収支の先行きについては貿易収支の動向が重要となる。

輸入金額増加の主因となっている原油価格は、8月は1バレル71.8ドル（輸入C I F 価格）と前月からさらに上昇したが、WT I 価格（月中平均）は7月に1バレル74.4ドルとなった後、8月は同73.1ドル（前月比▲1.8%）、9月は同64.1ドル（同▲12.2%）と足元まで低下傾向を辿っている。このように原油価格が落ち着いてきていることを勘案すると、9月分以降の原油輸入C I F 価格は低下に転じる可能性が高い。原油価格の動向については不透明な部分も大きいですが、原油価格の輸入金額への押し上げ寄与は徐々に剥落していく公算が大きいと考えられる。一方、輸出金額についても米国経済の減速を背景に、増加ペースは鈍化してくる見込みだ。輸出の増加ペース拡大による貿易黒字額の増加は当面、見込みにくいものの、原油価格については再び上昇することがなければ貿易黒字額を大きく押し上げる方向に働こう。経常収支全体では、貿易収支に下げ止まりの兆しが見えてきたことに加え、所得収支の黒字拡大とサービス収支の赤字縮小が下支えする形で高水準での推移が続くとみられる。

○7-9月期の外需寄与度は比較的はっきりとしたプラスに

8月の国際収支の結果までを反映して7-9月期の外需寄与度を計算すると、比較的はっきりとしたプラスになることが見込まれる。もちろん、GDP 1次速報では9月の貿易統計の結果も加味されるため、あくまで暫定ではあるものの、外需はGDPの押し上げ要因となる可能性が高いと考えられる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。